

# ゆうかり放送委員会提供 ゆうかりに乾杯

第 136 回放送の概要 (2018 年 8 月 25 日放送)

## パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

かりん

(妹尾優香)



## ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

## 会計

小山俊則

## 相談役

わだかん

(和田幹司)

## ゲストコーナー (1) 兵庫県立視覚特別支援学校 教諭 岸本芳貴さん (58 陽会)

和田岬小学校、吉田中学校出身。高校はサッカー部から 1 年生の途中に美術部へ。セザンヌが好きだった。キュビズムのブラック、ピカソなどの先駆けの人も。キュビズムは多視点から描く。それは、ちょっと上から見たり、横から見たりして 1 つの画面に表現する。近代絵画の祖となる人。真似はしたが、その頃は深いところはわからず、不思議だなと思っていた。

高校に入学した時、3 年生は学園紛争の真っただ中だった。爆弾を作った先輩もいた。半年は授業が無かった。紛争後は制服が自由化になり、私服が増えた。絵の描きやすいジューパンで行けるようになった。受験勉強の中で絵を描いたり、ギターを弾いたりしていた。

京都教育大学へは京都芸大を落ちたので、担任の先生に勧められて西洋画を受けた。素晴らしい先輩方が沢山いた。卒業後は教師だけでなく、企業にも就職する人もたくさんいた。

教師としては、普通は小学校、中学校だが、この時期は、高校教員養成の特別美術（特美、とくび）があった。日本画については、その時は何とも思ってなかったが、年を取るにつれ、やれば良かったと思っている。やはり日本の伝統は、油絵とは違う。奥さんは日本画に転向した。入学して最初はどのような画風を作るか、思考錯誤していた。しかし、卒業する頃から抽象思考があった。「再現性が無い絵」を描こうとした。見た物を描くのが「再現性がある」、そこに何があろうと、ここにある色や形が勝負なのが「再現性が無い」という事。自分の感覚的な物を表現するには簡単な手法である。見ながら描く事は必要では無い。

大学には、最初は通っていたが、途中から木造アパートで月 5,000 円の所に下宿した。奥さんとなる人や、日本画、デザイン画、彫刻の人達が、どんどん入ってきた。大学の近くにあったので、いつもどこかで宴会をしていた。当時、奥さんとなる人は親友の彼女で友達の人だった。友達に恵まれた、とても

楽しい青春だった。今でも集まっている。

就職にあたり、クレーのように髪結いの亭主だったら良いなあ、とったりしていた。実際には男が働くのだが。4回生になる前に大失恋をした。一番遠い所へと思い、中南米へ行った。半年、放浪した。若い時にしかできない旅をしよう、このまま卒業していいのだろうか。先輩のインカの絵なども引き金となった。ペルー、チリ、アルゼンチン、ボリビア、エクアドルに行った。途中で知り合ったプロのカメラマンと同行することに。旅行中にスペイン語が話せるようになっていたので、英語しかできない彼と一緒に旅した。最初は、運賃など二倍位払わされていた。旅費は父に出してもらった。先輩からボリビアでチンチラの毛皮を手に入れたら100万円位になるからと聞いてたし、父には、国立だから学費は安いけど、私立に行ったと思って出して欲しいと頼んだ。父には感謝している。

旅で特に印象に残った所は、それぞれあるが、ペルーのインカ帝国の所と、エクアドルのガラパゴス諸島。メキシコのユカタン半島のマヤ文明の派生した所、アステカ、とかその辺り。人々の生活や、蒙古斑のある同じ民族としての親しみ、ペンションなどでの人との触れ合いが良かった。チリからアンデスへ、トラックで山の中を超えていく。荷台に板を敷いて乗った。インディオは文字が無いので、何を言っているのかもわからないが、豆を食べるとくれたりした。そういう世話に沢山なった。困った事は、リマで同行のカメラマンのリュックが無くなった。怪しいボーイがいた。空手などできないが、振りをしていたら、そのボーイがだんだん青ざめてきた。当時ブルース・リーが流行っていて、日本人は皆出来ると思っている。すると、しばらくして奥からリュックを持ってきた。メキシコでは、夜中に、イミグレーションのドキュメントを見せろと入ってきた。マリファナを持っているだろうと捜査されたが、タバコしか吸わないから持っていないと言った。喫煙も禁止だったが、間違っていたと、すぐにタバコを1カートン買ってきてくれた。



マユピチュ

## 2. ミュージック : 「君住むまち僕往くまち」作詞、作曲、演奏、歌 岸本芳貴さん

以前、FMわいわいで紹介した「センチメンタル京阪神」は岸本さんと奥さんの40年間の愛の実話。それに対し、この曲は、一般的な愛の歌である。

1. 君住むまち 僕往くまち 憧れ通り 海辺のまち  
僕住むまち 君往くまち 海岸通り 行き交う人  
二人歩いた 遊歩道 地図を重ねて 時がゆく  
語り明かした 他愛ない事 重ねた指の温かさ  
君住むまち 僕往くまち 憧れ通り 海辺のまち  
僕住むまち 君往くまち 海岸通り 行き交う人
2. 君住むまち 僕往くまち 憧れ通り 海辺のまち  
僕住むまち 君往くまち 海岸通り 行き交う人  
想いでの海 きれいな夜の 二人巡った港町

二人遊んだ 海辺の店に 君の姿今はなく  
君住むまち 僕往くまち 憧れ通り 海辺のまち  
僕住むまち 君往くまち 海岸通り 行き交う人

3. 君住むまち 僕往くまち 憧れ通り 海辺のまち

僕住むまち 君往くまち 海岸通り 行き交う人  
一緒に居ようと 探したまちに あの家ぼつんと震んでる  
誰のせいにもしないけれど ぼつんと独りここに居る  
君住むまち 僕往くまち 憧れ通り 海辺のまち  
僕住むまち 君往くまち 海岸通り 行き交う人  
誰のせいにもしないけれど ぼつんと独りここに居る  
君住むまち 僕往くまち 想いで通り 海辺のまち

### 3. ゲストコーナー (2)

中南米を放浪する時、このまま社会に出ていいのかと思って旅に出た。結果、放浪したことで何とかなるのだと思えるようになった。

就職は、川西明峰高校（5年）東灘高校（11年）神戸北高校（14年）で教師をした。和田岬から、子供が生まれてからは塩屋から、通っていた。30年の高校教師生活での生徒指導や楽しい美術指導について京都のフォーラムで発表した。

現在は、視覚特別支援学校で教諭をしている。通勤時間を短くしたくて、資格を取った。視覚特別支援学校には幼稚園、小学生、中学生、高校生、大人がいる。美術を教えている。美術では一般には粘土を使う。絵画は、サンドペーパーに粘土を張りつける。そこに、型をつける。先生がシリコン状のラバーの上の紙をなぞって線を入れて、それを生徒がさわる。犬が好きなきがサンドペーパーに色鉛筆で犬を描いた。途中失明の生徒は「色」の記憶がある。色鉛筆なども入れ物の中の順番で覚えている。点字を読むので指先が敏感である。



生徒の作品

弱視の生徒は視野が欠けていたりするので、小さな画面や小さな作品になりやすい。大きな物は分かりにくい。作品は、県立美術館で10月頃の「みんなのアート展」で展示される。生徒の作品を見ていて感



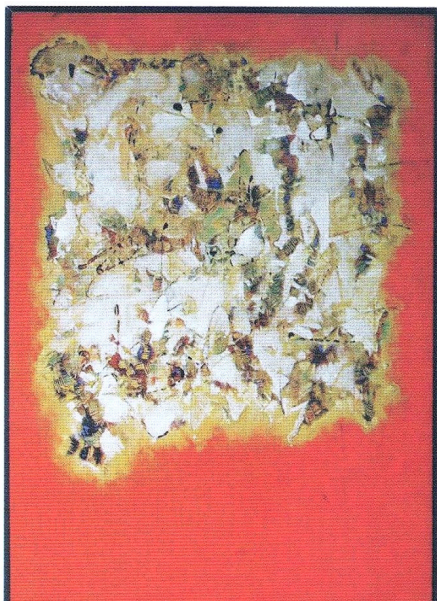
じるのは、触察する能力で、道具なども工夫している。先生と生徒は1対1で見ると、単一障碍の場合は一人で見る時もあるし、他の障碍を合わせ持つ子がいると助っ人がいる時がある。生徒60人に対して先生は80人いる。

アーティストとしての創作活動は、神戸北高校在任中から、「魂」をテーマにしている。哲学で「魂」を考察するものがあり面白い。しかし形象化するのとはとてもむづかしい。「魂」とは、その人を取り除いても、なお目つその人であるような、人の核となるような物ではないか。それを表すのには、どうしても抽象表現となる。その中に自分の記憶があったりして描く。誰かに、これは魂である、とか、自分の魂であると思ってもらえたら良い。

赤は肉体、空間にふわっと浮いている感じ、その中に核という物がある、死んでもなお魂がある、という感じである。タイトルは「魂の地図」、キャンバスの広がりの中に描くので、地図のように見える。僕の魂は何処から来て、何処へ行くのだろう。意識はしていないが、魂の軌跡ととらえても良い。永井均著「こどものための哲学」を読んだ。哲学的にも魂の存在を認めている。生きていても自由に動く魂はあり、肉体は滅びても核となる魂は存在する。

奥さんは西洋画卒だが、亡くなる5年位前に日本画に転向した。院展の影響で日本人なら日本画に戻ると、きっちりと日本画の素材で描いていた。奥さんの絵は、顔彩をニカワで溶いている。最初は抽象画だった。小磯良平らの新制作展に出品し関西新作家賞を受賞した。アーティスト同士だが、お互い淡々と制作していた。アドバイスなどして、お互いを尊敬しあっていた。

バンド活動は、学生時代から楽器をしていたが、1年ほど前からライブハウスなどで演奏するようになった。奥さんとの42年間を込めた「センチメンタル京阪神」は、現役生で全盲の、嘉門達夫さんの弟子の「かしわもちかずと」君が、垂水のライブでバックギターを務めてくれた。ライブは皆の反応など、楽しんでいる。



岸本芳貴 油彩画・「魂の地図」



岸本美稲子 風景画・「風景」(遺作)

#### 4. 地域瓦版

「こどもフェスタ IN 兵庫駅南公園」8月26日(日)10時~16時が開催されます。大人がみんなの夢をかなえます。モンキーブリッジ、ウォータースライダー、流しそうめん、ドラム缶風呂、あおぞら図書館、木の工作もできます。一部有料。

「R-1」優勝者の濱田祐太郎さんは卒業生で、一緒にお風呂にも入った。真面目な人である。針灸の勉強をしていたのに、吉本に入った。文化祭に出たりしていた。学校はスポーツも盛んである。

神戸北高校の卒業生と塩屋の文化祭に出た時につけたバンド名は、塩屋の飲み屋さん「蓮の花」に良く行くので、「蓮の花ボーイズ」という。



放送音声は、FMYのHPおよび「ゆうかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。

<http://tcc117.jp/fmy/>

<http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/>